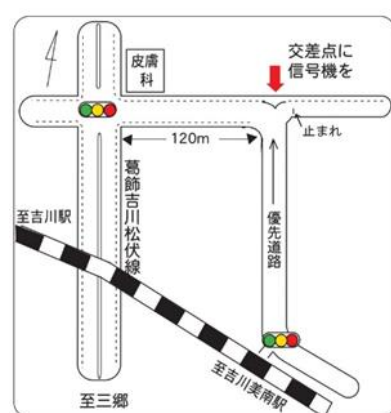


優先道路がわかりにくい、いびつな交差点の改善を



吉川駅前を東西に走る道路は、県道葛飾吉川松伏線（さくら通り）を超えた先で大きなカーブを描き、武蔵野線に沿って美南方面へと向かいます。カーブのところで南配水場、さらには三輪野江方面へと向かう道路と交差します。

以前は武蔵野線沿いの道路がまっすぐ吉川駅方面に延びていましたが、2012 年、県道葛飾吉川松伏線の開通により現在の形状になりました。優先道路は美南方面への道路とされ、三輪野江方面からの車道には「止まれ」と記されていますが、消えかけています。交差点には大きなカーブを知らせる矢印看板が設置されていますが、優先道路がわかりにくい上に交通量が多く、通勤時間帯などには渋滞も見られます。

この交差点に信号機設置をとのご要望をいただき、一般質問させていただきました。

市の答弁は、

- ① 道路構造令に基づき、「県が吉川警察署との協議・指導の下に交通安全対策を講じ、整備された交差点。
- ② 警察庁交通局長の通達「信号機設置の指針」では「隣接する信号機との距離が原則 150m 以上離れていること」が設置条件。この交差点と隣接する葛飾吉川松伏線との距離は 120m で条件を満たしていない。

というものでした。

しかし、この交差点が本当に「安全対策が講じられた」交差点と言えるのでしょうか。信号機が設置できないのであれば三輪野江方面に向かう道路を優先道路にして、美南方面から来た車両は一時停止…というような形にするなど、より安全な交差点にする工夫も可能ではないでしょうか。実際に走行するドライバーの立場に立って最良な安全策を講じるべきではないかと思います。再度検討するよう求めました。



♡ きよみの暮らし ♡

◆1 月というのは、私には感慨深い思い出がたくさんある月です。◆25 歳の 1 月、私は一人で名古屋から東京に出てきました。名古屋のとある病院の精神科病棟で働いていたのですが、違う精神医療の現場で働いてみたいというのが一番の目的でした。荻窪に住み、中央線で新たな職場に通いました。夜勤明けに電車に乗るとはるか西方に富士山が見え、東京で暮らし始めたのだと実感したものでした。◆次の年の 1 月、私は結婚して仕事を辞めました。ずっと精神医療に携わっていきたくて思っていたのに、職場結婚だったことで思うに任せぬ現実にはぶつかってしまいました。◆長男を出産後流産を繰り返し、二人目不妊に悩みました。今思えば悩んだ期間は短かったのですが、辛い時期でした。31 歳の 1 月、大雪が降った翌日のことでした。長男を連れて江戸川の堤防に行き、そり遊びをしていた時、なぜか突然次男を妊娠していることに気づきました。根拠もないのに「この子は流産しない」「ちゃんと生まれる」と、白銀の世界の中でひとり確信したことを、雪が降るたびに思い出します。◆我が家の初代愛犬、ルフィが亡くなったのも 1 月でした。8 年前のことで、ルフィは 12 歳でした。外が大好きで隙あらば飛び出していくような、脱走を繰り返す犬でした。亡くなる前日も、かなり衰弱していたのに散歩に行きたがりでした。家の周りを、この世に別れを告げるかのように、大地を愛しむように、ゆっくりと匂いを嗅ぎながら歩いた姿が今も忘れられません。火葬の時は家族 4 人全員で大号泣しました。ペットは大切な家族であり、家族の心を繋ぐ役割も果たしていると学びました。



雪田きよみ

つわぶき便り

日本共産党吉川市議会議員
雪田 きよみ
住所：吉川市きよみ野 3-23-1
電話：983-7140
e-mail:kiyomi.snow@mbr.nifty.com
URL:kiyomiyukita.com

病床削減政策、吉川市民の医療への影響は？

昨年 5 月 21 日、病床削減などを盛り込む「医療法等改正案」が可決・成立しました。2020 年度から病床の削減や統廃合を行った医療機関に給付金が配られていますが、法改正によりそれが恒久化されました。その財源は消費税です。社会保障のために充当するはずの消費税が病床削減のために使われることに對し、大きな疑問を感じています。

12 月議会一般質問では、国の政策が吉川市民の医療に及ぼす影響について問いました。

東部保健医療圏の計画は？



埼玉県内には 10 の保健医療圏があり、圏域ごとに医療体制の整備が進められています。吉川市が属する東部保健医療圏の保健医療計画を問いました。

担当部長は、**東部保健医療圏の病床数は「埼玉県地域保健医療計画」に定められた基準病床数を下回っているため病床削減は行わず、266 病床の整備を進めると答えました。具体的には高度急性期病床を増やす一方で、急性期病床を回復期病床へと機能転換を進める方針です。**

埼玉県の東南部地域は今後急速に高齢化が進行することが予測されており、医療を必要とする人が増える地域と見込まれます。こうした状況の中で病床全体の数は減らさないまでも急性期病床を減らす政策は、結局は必要な時に入院できないような状況を生み出すのではないのでしょうか。

県の「地域医療構想」には、東部地域の住民の入院は千葉県や東京都、さいたま市などに「流出」。逆に東部地域への「流入」はそれほど多くなく、「流出超過」とみられています。「病床利用率を見る限り、必ずしも一般病床に不足感はない」と記されています。

コロナ禍の教訓をどう生かすか

でも、本当にその見解で良いのでしょうか。コロナ禍で医療がひっ迫した時、東部地域の医療はひっ迫しなかったのでしょうか。



全国ではコロナ禍で医療がひっ迫し、医療を必要としながら入院すらできないままにご自宅で命を落とした方が相次ぎました。私たち共産党議員団が今年も行った市民アンケートにも、「万が一感染した際に入院できるのか不安」との声が非常に多く寄せられました。**コロナ禍が明らかにしたことの一つは、平時から余力を伴った医療提供体制の確保・充実・強化が求められているということではなかったでしょうか。**

気候変動や森林伐採の影響で、新興感染症のリスクが高まっていると言われています。コロナが終息したとしても、新たな感染症に対する備えが非常に重要です。病床削減ありきの政府の姿勢に、非常に大きな疑問を感じます。

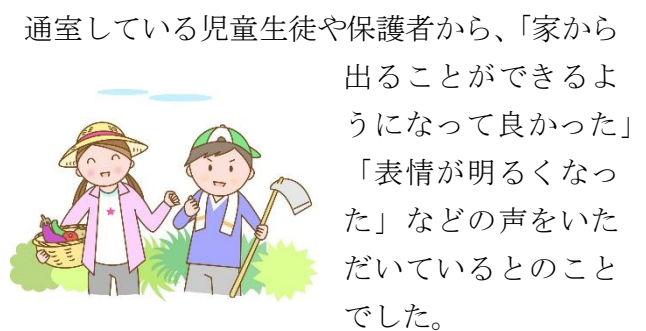
国や県と今後どのような協議を進めていくのか、市の姿勢を問いました。担当部長は「今般のコロナ禍において病床がひっ迫したことは、非常に大きな問題」と認めたうえで、「国も今後地域医療計画を作るにあたっては新しい感染症対策について盛り込む必要があると言っており、注視していく」と答えました。

「適応指導教室」から「教育支援センター」へと名称変更 市の不登校支援、現状と課題は？

市は今年度、不登校の児童生徒が通う施設の名称を、「適応指導教室」から「教育支援センター」へと改めました。不登校の児童生徒に一律に学校復帰だけを目指すのではなく、「自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立すること目指せるよう、学習支援や体験活動の充実、教育相談員による丁寧な面談を行っていく」との方針です。具体的に何がどのように変わったのか、一般質問で問いました。

きめ細かな支援が充実

担当部長は、「教育相談員を増員した結果、無理のない範囲で声掛けや個別支援ができています」「地域の方の協力を得て農業体験・茶道体験を行い、達成感や自己肯定感をはぐくむ機会を持てるよう工夫ができ、小さな成功体験を積み重ねられるよう、きめ細かな支援に努めている」と答えました。



卒業生に向けたアンケート結果

市は今年度、「これまでの適応指導教室の卒業生に向けたアンケート調査を行い、義務教育終了後も含めた不登校支援の在り方について研究を深めていく」との施政方針を示しました。その内容と結果について問いました。

アンケートは、平成 24 年度から令和元年度までの間に適応指導教室を利用した生徒の中で、中学校 3 年生時に在籍していた 35 名とその保護者を対象に郵送により実施され、利用者 10 名・保護者 9 名から回答があったとのことでした。

「適応指導教室に期待したこと」「適応指導教室の生活」「指導員の対応」「学校との連携」「居

場所として」などのほか、現在の困りごとや相談先について聞いたそうです。

適応指導教室の対応についてはほとんどの方が満足されており、特に居場所として一定の評価を得られたとの答弁でした。「小さな集団だったけど、友達との付き合い方を学んだ」「自分一人じゃない、仲間がいると感じた」などの意見がある中、一方で「学校の先生との距離を感じた」との保護者の声もあったそうです。

令和 2 年度の卒業生 6 名で座談会を開催し、直接意見を聞いたそうです。座談会では、「進学した高校で適応指導教室の経験を活かし、友達作りを頑張った」「個別学習の際に学んだ音読の大切さを実感している」などの声を聴くことができ、卒業後も困ったことがあればいつでも少年センターに来られるような関係が構築できていると認識したとのことでした。

今後の不登校支援の在り方は？

アンケート結果から、今後の市の不登校支援についての考えを問いました。

「子どもたちや保護者は不登校であることに強い不安を抱え、学校に行けない自分を責め、孤立していた。アンケートの中でも『居場所』としての教育支援センターの重要性が多く挙げられ、子どもたちや保護者にとって安心できる居場所が必要であると改めて認識した」「今後も、子どもや保護者が孤立しないよう支援に努めていく」と答えました。不登校の児童生徒の中で情緒的な不安を抱えているお子さんが意外と多く、福祉部門との連携も必要との答弁もありました。

ケースによっては不登校に取り組む市内の様々な個人や団体も一緒に検討する体制を作るよう要望しました。センターに通う小学生が少ないことも課題だと思えます。アンケートに答えなかったみなさんの声を聞き取ることも大切だと考えます。



SDGsがめざす世界 ～市民にやさしいあったか吉川市をめざす会学習会～

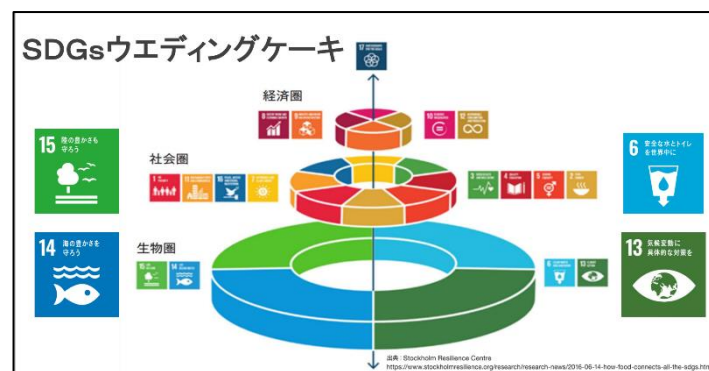
12 月 5 日、『市民にやさしいあったか吉川市をめざす会』のみなさんが学習会を開催されました。テーマは「SDG s がめざす世界」、講師は市民の会・無所属の岩田京子議員でした。簡単にご紹介します。

SDGsとは？

SDG s（持続可能な開発目標）とは「すべての人々にとってより良い、より持続可能な未来を築くための青写真。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指す」というもので、2030 年までに達成することが目標とされています。

「クリーン・エネルギー」「適切な雇用・経済成長」「産業、技術革新」「社会基盤」「格差是正」「持続可能な都市・コミュニティ」「平和、法の正義、有効な制度」など 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、「あらゆる形態の貧困に終止符を打つことを目標とする行動計画」とされています。

SDGsウェディングケーキとは？



生物（地球環境）の基盤があることで、私たちの社会・経済が成り立っていることを表しています。貧困や教育など社会の問題を解決しても、水不足や気候変動など根本的な環境の問題が解決しなければ、人類・地球の未来はありません。

SDG s の目指す目標や課題は互いに関連しあい、どれも蔑ろにはできないものですが、その中でも「海の豊かさ」「陸の豊かさ」「気候変動への具体的な対策」が、今後の社会・経済を守るうえでも非常に重要です。

人間が排出する CO2 の悪影響

地球の 4 分の 3 を占める海は、二酸化炭素や熱の吸収をしています。人間社会が排出する二酸化炭素により海水は酸性に傾き、海洋生物（プランクトンやサンゴなど）に多大な影響をもたらしています。

陸への影響も深刻です。今は酸性雨が降っても土壌が酸を吸収していますが、吸収すると同時にカルシウムイオンやマグネシウムイオンなど植物の生育に欠かせないイオンを手放していきます。土壌が最後に手放すのはアルミニウムですが、アルミニウムは毒性があり、植物の成長に悪影響をもたらします。

11 月に開催された COP26 では、日本は「化石

化石賞、2 回連続受賞の日本

賞」を 2 回連続受賞という非常に恥ずかしい状況でした。

CO2 削減目標で諸外国は削減目標を 1990 年または 2005 年に比べた削減目標を掲げていますが、日本は 3. 11 の影響で最も火力発電に依存していた 2013 年比の目標です。3. 11 以前の排出量を基準にして、さらに減らす姿勢が求められています。

そして日本の削減目標は、これを積み上げても 2100 年には 2. 7 度上昇すると国連に指摘されています。国の本気な姿勢が求められています。

吉川市の予算、温暖化対策費は 74 万円で予算に対する割合は 0. 003 % ととても低く、県内で 33 位。太陽光の補助以外には予算を充てていません。市の姿勢も変えなくてはなりません。

生活相談

いつでも、どんなことでも、
気軽にお電話ください。

983-7140